



2017年
7月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」

司祭 ペテロ 中原 康 貴



岩田 政親

昨年、わたしたちはフォス、プランマー両司祭の来神を記念して、神戸教区宣教140年を祝いましたが、今年には神戸開港150年として、様々な催しが神戸の各地で行われています。ちなみに、その神戸港に最初に遣ってきた聖公会の宣教師はチャールズ・F・ワレン司祭でした。

ワレン司祭はキリスト教禁令の高札が撤去された1873年の12月に来日し、神戸の居留地に入りましたが、一ヶ月後、日本人がより多く住む

大阪の居留地に移りました。しかし、ワレン司祭は神戸居留地に住んでいた英国人のために、月二回、神戸にやってきてユニオン・チャーチ(超教派の教会)で祈禱書による礼拝を行うようになったのでした。そして、1876年9月21日、神戸に遣ってきたフォス、プランマー両司祭は、まずワレン司祭からユニオン・チャーチでの礼拝を引き継ぎ、日本語の習得に励みました。

神戸教区、最初の受洗者

日本語の習得は英米の宣教師たちにとって、他の言語と比べると非常に困難なことだったようです。しかし、彼らは来神の翌年に下山手通の住居に移り住み、その蔵を改装してチャペルとし、聖バルナバ(6月11日)に献堂しました。おそらく、フォス、プランマー両司祭は共にリヴァプール(イギリス)の聖バルナバ教会で働いていたので、この日を選んだのでしょう。そして、献堂式後に迎えた最初の主日礼拝で、フォス司祭はマルコ福音書16章15節から初めて日本語で説教をしました。

三ヶ月後、東京でウィリアム・B・ライト司祭(1873年に来日)から洗礼を受け、同司祭の伝道を手伝っていた水野功が来神し、フォス司祭らを手伝うようになったのですが、そのわずか二ヶ月後の1877年11月26日に最初の洗礼式が行われたのでした。ちなみに、ワレン司祭が最初に洗礼式を行ったのは1876年6月25日、来日して二年半、日本語の礼拝を始めて一年半のことです。

140年前、最初に洗礼を受けたのは「岩田政親」という青年で、フォス司祭の日本

語教師でした。フォス司祭は彼から熱心に日本語を習いました。そして、フォス司祭は熱心に日本語を学びながら、いつの間にか彼に福音を伝えていたのです。

その後、フォス司祭は第二

代大阪地方部主教となり、「聖歌集の父」としてよく知られています。今も多くのの人に愛されている文語訳聖書の翻訳委員として、ヨハネ福音書等も翻訳しました。フォス主教がこのように日本語に熟達するようになったのは、もちろん主教自身が持っていた才能もありますが、当時はまだ数少なかった日本人の友・岩田政親に「福音を伝えたい。そのためには早く日本語を習得したい」という強い思いがあったからであり、その後も「二人でも多くの日本人に福音を伝えたい」と願っていたからではないでしょうか。

福音を宣べ伝える際に、まず問われるのは、「自分の信仰は他人に伝えずにはいられないものか?」ということではないかと思えます。そして、実にわたしたちの信仰は、本来「伝えずにはいられないもの」なのです。

主の言葉は、わたしの心の骨の中に閉じ込められて火のように燃え上がります。押しつけておこうとしてわたしは疲れ果てました。わたしの負けです。

(エレミヤ20・9)

* * *

初代教会時代、教会はローマ帝国下において厳しい立場に置かれていました。しかし、それでもクリスチャンは減るどころか、増えていきました。どのようにして増えたのかというと、パウロやアポロのような名文筆家や名説教家が地下教会で活躍したわけではあ

(神戸聖ペテロ教会教師)

神戸聖ミカエル教会副教師